

第2次ながおかヘルシープラン21進捗状況調査結果

各世代	結果
【乳幼児期】	長岡版ネウボラの推進により、安心して子育てができる環境が整っていることで、育児が楽しいと思える保護者が増加している。一方で、就寝時間が遅くなる子どもの増加や、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる保護者が減少している。生活リズムの見直しを含めた、規則正しい生活習慣の啓発が必要。
【学童思春期】	体力の低下、肥満の増加がみられた。児童館、児童クラブの利用者数が増加しており、遊びや生活の場として認知されているため、これらの環境も活用しながら健康づくりの基礎となる食生活や身体活動についてより良い習慣が持てるような取組が必要。また、悩みや不安を聞いてくれる人がいると思う児童生徒の割合が減少しており、メンタル面でのサポート体制づくりが必要。
【青年期】	高血圧の人の割合は改善がみられた一方、糖代謝、脂質代謝については悪化した。また、男性の肥満は横ばいから悪化傾向、女性のやせの悪化がみられた。健康相談件数は増加するなど、心身ともに健康に関する関心は高まっているため、効果的な取組が必要。
【壮年期】	糖代謝、高血圧は横ばい、脂質代謝、肥満の数値が男性において悪化がみられた。脳血管疾患のSMRは数値は改善しているが、国と比較し高い状況であり、虚血性心疾患のSMRにおいては増加傾向にあるため、生活習慣病予防の更なる取組が必要。
【高齢期】	サークル活動などが活発であり、団体数が増加している。一方、高齢期における自殺者数は横ばいであり、自殺対策を支える人材育成の他、地域とのつながりや生きがいづくり、住民への啓発などの取組が必要。
【環境】	ごみの排出量減少、歩道除雪実施延長やノンステップバスの導入など、安全に出かけられる環境整備などについて改善がみられる。今後も健康で安心して暮らせるまちづくりをすすめていくことが必要。

第2次長岡市歯科保健計画進捗状況調査結果

健康目標	結果
【むし歯をつくらない】	<p>○乳児期・学童期における一人平均むし歯本数は減少傾向にあり、むし歯のない児童、生徒の増加がみられ、改善している。仕上げ磨きをしている家庭の増加や、フッ素塗布、フッ素洗口実施が関係していると考えられる。</p> <p>○フッ素塗布について、1.6歳、2歳、3歳の実施率は近年減少している。利用しやすい体制づくりをすすめていく必要がある。</p> <p>○う蝕受診勧奨者の受診率は策定時とほぼ変化がなく、目標を達成していない。受診しやすい環境づくりや、引き続き幼少期からのむし歯予防についての指導・周知を行っていく必要がある。</p>
【歯周病を予防する】	<p>○歯周疾患検診受診率、妊産婦歯科健診受診率について、策定時よりは増加しているが、目標は達成していない。歯周病罹患率は増加傾向であり、定期検診を受けることの必要性や重要性を周知していく必要がある。</p> <p>○歯周病は、長年にわたり我が国において有病率が高く、歯の喪失の主な原因でもある。歯と口腔の健康が豊かな人生を送るための基礎となることを、地域における歯科教育等を通して啓発していく必要がある。</p>
【口腔機能を維持する】	<p>○歯肉炎受診勧奨者の受診率は策定時とほぼ変化がなく、目標を達成していない。むし歯・歯肉炎予防教室実施率は昨年度と比較すると増加しているが、目標は達成していない。幼少期からのむし歯予防や歯肉炎予防が生涯にわたる口腔機能の維持につながっていくため、歯の健康についての意識を高め、技術を習得することができるよう歯科保健指導、歯科健診受診を推進していく必要がある。</p> <p>○各ライフステージに合わせた口腔機能維持のための取組を推進していく必要がある。</p>